

千葉県社保協通信

2015年度 — No14 2016年 3月 23日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉サカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

五輪・パラリンピック推進 巨大開発優先 大企業優遇 ゆがみそのまま 医療・福祉に冷たい県の姿勢 明らか

—2016 年度県予算 学習会開く— 県社保協

県社保協は3月18日、千葉市内で、寺尾さとし日本共産党県会議員を講師に、千葉県の新年度予算について学習会を開催しました。寺尾氏は、はじめに2016年度政府予算案について「社会保障切り捨て、大企業にはさらなるばらまき、戦争法推進の大軍拡予算」であると指摘。つづいて新年度千葉県当初予算の全体像と医療・福祉分野を中心に1時間半にわたって解説、「オリンピック・パラリンピック推進、巨大開発推進、大企業優遇」の一方で相変わらず「全国最下位クラスの医療・介護・福祉」の現状を明らかにしました。

具体的には▲特養ホーム整備では今年度より430床増の1,630床、小規模含め1,804床を整備するものの県内約13,000人の待機者には遠く及ばない。▲保育所等整備では約42億円を計上するも待機児解消には程遠い中、新たに事業所内保育所整備補助事業(2千万円)を行う。▲後期高齢者医療では保険料抑制のための財政安定化基金活用を県が拒否。▲医師・看護師の確保では民間から自治体病院への医師派遣事業(1億2千万円)5名から12名に拡充するも、保健師・看護師等の修学資金貸付事業(約2億8千万円)では60名分拡充するものの全国最低の貸付額はそのままなどの問題点を指摘しました。さらに格差と貧困が広がる中で母子父子寡婦福祉資金、子ども医療費助成事業、重度心身障害者(児)医療給付改善事業などの制度改善が急がれると話しました。

そして「国際医療拠点」を謳う成田市の医学部新設を支援する一方で、県立佐原病院の耐震補強工事が白紙になるなど県立病院つぶし、袖ヶ浦福祉センター問題など、医療・福祉に冷たい県の姿勢を厳しく批判しました。14団体・7地域の40人が参加。「資料が充実して大変わかりやすかった」の感想が聞かれました。



必要な医療・介護は国の責任で！

—厚労省交渉に県社保協から参加—

3月2日中央社保協は、現在取り組んでいる署名の要請項目と「都道府県国保ガイドライン案」についての厚労省交渉を行い、千葉県社保協から3人が参加しました。

千商連鈴木英雄事務局員が実態調査の結果を示し「国保の滞納が多いのは保険料が高すぎるからと認識していないのか」と質したのに対し、担当者は「認識は一致している。深刻な事例は参考にさせてもらう」としつつも、国の予算配分をかえることや財政負担増については「厳しい」と強調。

中央社保協野村幸裕代表委員は、「国保は社会保障であり、国の責任でしっかり運営すべき」「地域住民の声を政策に活かしてほしい」と訴えました。



消費税増税中止!
安全・安心の医療・介護を求める

4.20 国会行動

● 4月20日(水)

10:30~14:30

★ 10:00より入館証配布

● 参議院議員会館 1F 講堂

午前: 出発集会の後

千葉県選出の全議員に要請を!

午後: 介護保険の改善を求める集会

(予定)